



東北大學

ISSN 2185-5196

東北大學埋藏文化財調查室 年次報告2018



展示資料に関するギャラリートーク（於 史料館）

**東北大学埋蔵文化財調査室
年次報告2018**

東北大学埋蔵文化財調査室 年次報告2018

目 次

I. 卷頭言	1
II. 東北大学埋蔵文化財調査室の概要	2
1. 東北大学構内の遺跡と埋蔵文化財調査	2
2. 埋蔵文化財調査室の組織と施設	5
3. 運営委員会・調査部会	6
III. 2018年度（平成30年度）事業の概要	7
1. 埋蔵文化財調査の概要	7
(1) 川内北地区の調査	7
(2) 川内南地区の調査	9
(3) 青葉山地区の調査	11
(4) 富沢地区的調査	11
2. 遺物整理作業	11
(1) 仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第14地点（BK14）の整理作業	11
(2) 仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第15地点（BK15）の整理作業	14
(3) 青葉山E遺跡第10次調査（AOE10）の整理作業	14
3. 年次報告・調査報告の刊行	14
4. 保存処理事業	14
5. 資料保管状況	15
6. 研究活動	16
(1) 受託研究・共同研究等	16
(2) 学会発表・原稿依頼等	18
(3) 科学研究費採択状況	18
7. 教育普及活動	18
(1) 非常勤講師	18
(2) 授業等教育活動への協力	18
(3) 展示活動	19
(4) 講演講師・協力依頼等	19
(5) 保管資料の見学・貸出・掲載の依頼等	19
(6) 外部からの派遣依頼等	20
(7) その他の広報活動	20
8. 『仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第14地点 第1分冊』の訂正	21
《引用・参考文献》	21
IV. 資料	22
1. 国立大学法人東北大学埋蔵文化財調査室規程	22
2. 東北大学埋蔵文化財調査室運営委員会委員名簿（2018年度）	24
3. 東北大学埋蔵文化財調査室運営委員会調査部会委員名簿（2018年度）	24
4. 東北大学埋蔵文化財調査室刊行報告書一覧	25

例　言

1. 本年次報告書は、東北大学埋蔵文化財調査室が2018年度に行った埋蔵文化財調査の概要、その他の事業についてまとめたものである。
2. 本年次報告書の編集・執筆は、菅野智則・柴田恵子・石橋宏・千葉直美が担当した。
3. 図1・2の背景の元図は、それぞれ、国土地理院発行の、2万5千分の1地形図『仙台西北部』・『仙台西南部』、1万分の1地形図『青葉山』を使用した。
4. 引用・参考文献は、巻末にまとめた。また、本文中で当室が刊行した報告書類を引用する際には、下記のように略した。

例　『東北大学埋蔵文化財調査年報』1 … 『年報』1
『東北大学埋蔵文化財調査室年次報告』2008 … 『年次報告』2008
『東北大学埋蔵文化財調査室調査報告』1 … 『調査報告』1

I. 卷頭言

『東北大学埋蔵文化財調査室年次報告』2018を刊行いたします。本報告では、当室が2018年度に実施した埋蔵文化財調査の概要、およびその他の事業の概要をとりまとめて報告しています。

2018年度も、前年度と同様に大きな発掘調査はありませんでしたが、2016年度から続く長期的な立会調査を実施しています。この立会調査は、仙台城跡二の丸地区である川内南地区において、キャンパス全城に排水設備を巡らすための工事に伴うもので、2018年度は3期目にあたります。

また、これまでの発掘調査の調査成果を元として、本学附属図書館・史料館のスペースをお借りした展示活動を継続して実施しています。2018年度は2件の展示を行っています。これらの展示の目的は、本学の教職員・学生のみならず、広く一般の方々に、本学の所在する敷地の歴史的背景を知ってもらうことです。この展示には、多くの人々にお越しいただき、大変良い評価を頂いておりました。より一層、このような当室の収蔵資料の利活用を進めていきたいと考えています。

学内外の関係機関や関係者の多大なご協力やご配慮を頂いて、円滑に事業を進めることができます。ここに厚くお礼申しあげるとともに、今後もご支援とご協力を宜しくお願ひいたします。

埋蔵文化財調査室長 藤澤 敦

II. 東北大学埋蔵文化財調査室の概要

1. 東北大学構内の遺跡と埋蔵文化財調査

東北大学には、各キャンパスに加え多くの研究施設があり、これらの構内には多くの埋蔵文化財が存在する（表1、図1）。とくに川内地区は、ほぼ全域が仙台城跡の二の丸地区と武家屋敷地区にあたっている（図2）。

これらの遺跡（埋蔵文化財包蔵地）において掘削を伴う工事を行う場合、文化財保護法により届出が義務づけられている。工事の掘削で遺跡が壊される場合には、計画の中止や変更により遺跡を現状で保存することが、文化財保護の観点では最善である。しかし現実には、現状保存は難しい場合が多い。そのため、発掘調査を行い、記録を作成することで、次善の策とする記録保存という方法が取られている。また、この記録保存のための発掘調査は、経費を原凶者が負担した上で、地方公共団体が実施するのが基本である。

構内に遺跡が存在する大学では、施設整備事業などの工事に先立つ記録保存のための調査を実施する組織として、大学内部に埋蔵文化財調査を担当する組織を設けることが進められてきた。考古学や関連する学問分野の専門研究者が大学内部に所属している場合には、学術的に充分な検討がなされるという社会的信頼に基づき、大学独自の埋蔵文化財調査組織が設けられ運営されている。また、学内に調査組織を設けることにより、結果的に迅速な調査と施設整備事業の円滑な推進が図られるという側面もある。

東北大学においても、施設整備を円滑に行うため、構内の埋蔵文化財に関する調査を行い、併せて資料の保管及びその活用を図ることを目的として、1983年度に東北大学埋蔵文化財調査委員会が設置された。これ以降、東北大学構内での施設整備等に伴う埋蔵文化財調査については、調査委員会の実務機関である埋蔵文化財調査室が実施してきた。1994年度には、調査委員会を改組し、学内共同利用施設としての埋蔵文化財調査研究センターが設置された。2006年度には、特定事業組織としての埋蔵文化財調査室へ改組された。そして、2017年には学内共同教育研究施設等へ再度改組され、事業を引き継いでいる。

表1 東北大学構内の遺跡

団地名	所在地住所	遺跡名	県道番号	時代	備考
川内1	仙台市青葉区 川内27-1-41他	仙台城跡	01033	近世	二の丸地区・武家屋敷地区・御衣林地区
	仙台市青葉区 川内12-2	川内古碑群	01386	鎌倉	弘安10年(1287)・正安4年(1302)
	仙台市青葉区 川内41	川内B遺跡	01565	繩文・近世	
青葉山2	仙台市青葉区 荒巻字青葉3-3	青葉山B遺跡	01373	繩文・弥生 古代	
	仙台市青葉区 荒巻字青葉6-3	青葉山E遺跡	01443	繩文・弥生 古代	
青葉山3	仙台市青葉区 荒巻字青葉4681	青葉山C遺跡	01442	旧石器	
富沢	仙台市太白区 三神峯一丁目101	芦ノ口遺跡	01315	繩文・弥生 古墳・古代	
川渡	大崎市鳴子温泉 大口字蓬田	上川原遺跡	36006	繩文	
	大崎市鳴子温泉 大口字町	丸森遺跡	36038	繩文	
	大崎市鳴子温泉 大口字町	東北大農場2・3号畠遺跡	36098	繩文	
	大崎市鳴子温泉 大口字町西	町西遺跡	36106	弥生	
小乗浜	牡鹿郡女川町 小乗浜	小乗浜B遺跡	73021	繩文	宿舎裏の山林部分



Sites in Tohoku University

- 1 : Sendai Castle Ruins
- 2 : Kawauchi steles
- 4 : Kawauchi B Site
- 6 : Aobayama B Site
- 7 : Aobayama E Site
- 8 : Aobayama C Site
- 11 : Ashinokuchi Site



- 1 : 仙台城跡 2 : 川内古碑群 3 : 川内A遺跡 4 : 川内B遺跡 5 : 桜ヶ岡公園遺跡 6 : 青葉山B遺跡 7 : 青葉山E遺跡 8 : 青葉山C遺跡
9 : 青葉山A遺跡 10 : 青葉山D遺跡 11 : 崇ノ口遺跡 12 : 片平仙台大神宮の板碑 13 : 郷六日如來の碑 14 : 葛岡城跡 15 : 郷六城跡
16 : 郷六建武碑 17 : 沼田遺跡 18 : 郷六御殿跡 19 : 郷六遺跡 20 : 松ヶ丘遺跡 21 : 向山高裏遺跡 22 : 萩ヶ丘遺跡 23 : 茂ヶ崎城跡
24 : ツツ沢横穴墓群 25 : 秋ヶ岡B遺跡 26 : 八木山線跡遺跡 27 : ツツ沢遺跡 28 : 青山二丁目遺跡 29 : 青山二丁目B遺跡
30 : 移土手(鹿込土手) 31 : 砂押屋敷遺跡 32 : 砂押古墳 33 : 二塚古墳 34 : 富沢遺跡 35 : 泉崎浦遺跡 36 : 金洗沢古墳 37 : 土手内塗跡
38 : 土手内遺跡 39 : 土手内横穴墓群 40 : 三神峯遺跡 41 : 金山薙跡 42 : 三神峯古墳群 43 : 富沢古墳 44 : 裏町東遺跡 45 : 裏町古墳
46 : 原東遺跡 47 : 原遺跡 48 : 八幡遺跡 49 : 後田遺跡 50 : 町遺跡 51 : 紙漉山遺跡 52 : 御堂平遺跡 53 : 上野山遺跡 54 : 北前遺跡
55 : 佐保山東遺跡 56 : 川内C遺跡 57 : 銀ヶ峰伊達家墓所 58 : 川内武家屋敷遺跡

図1 東北大学と周辺の遺跡

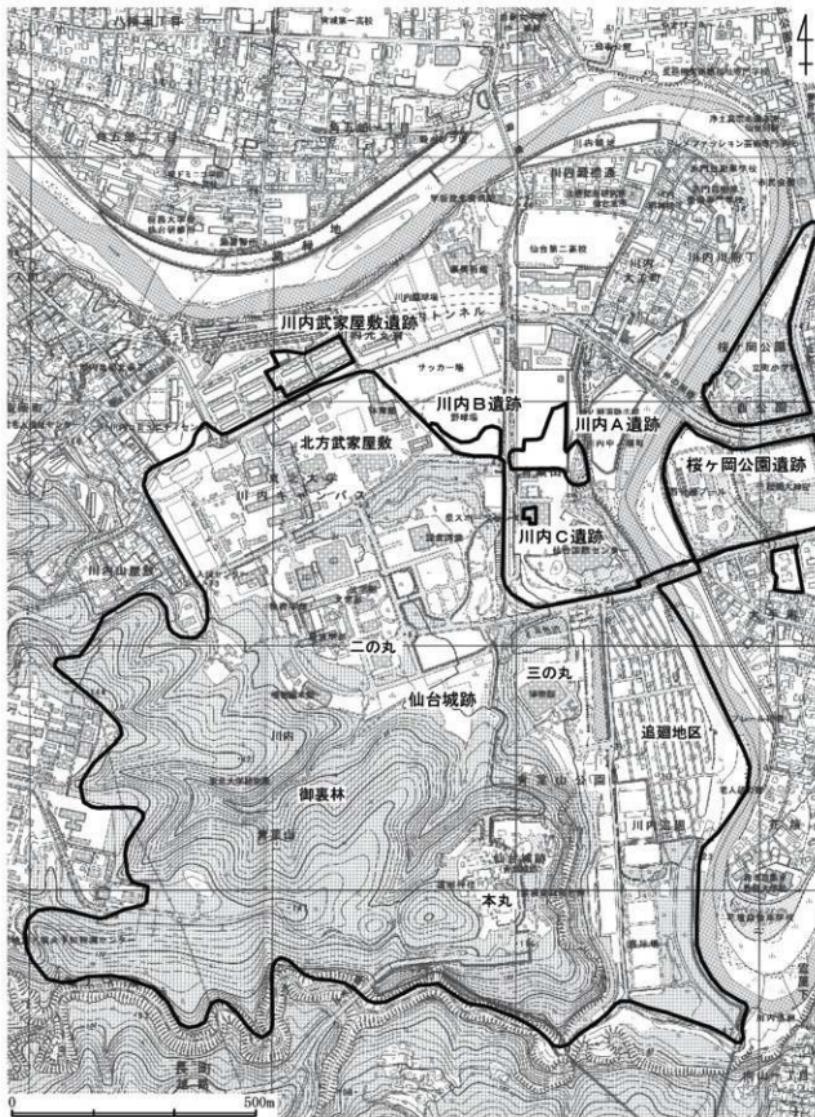


図2 仙台城と二の丸の位置

2. 埋蔵文化財調査室の組織と施設

当室の職員は、併任の調査室長1名、文化財調査員3名（うち特任准教授1名、専門職員2名）、事務補佐員1名（時間雇用職員）、および保存処理を含めた整理作業を担当する作業員4名（時間雇用職員）からなっている（表2）。本年度も規模の大きな発掘調査がなかったが、その様な調査を実施する際には、発掘調査に従事する作業員（時間雇用職員）を雇用している。

当室を運営するにあたって必要な経費は、埋蔵文化財調査室運営費として措置されている。内訳は、事務補佐員1名の人事費のほか、複写費・賃貸料費等の役務費、自動車維持費、消耗品費、福利厚生費等である。

発掘調査が実施される場合は、事業費の中に組み込まれる形で、事業ごとに予算化されている。その中から、作業員賃金や機器類リース費、消耗品費などを支出することになる。

また、発掘調査終了後の整理作業と報告書印刷刊行費については、全学的基盤経費によって措置されている。整理作業に携わる作業員4名の賃金も、ここから支弁されている。

当室の主要な業務は、2011年度より片平キャンパス本部棟4（D08）の1階（212m²）にて実施している。その中に、室長室兼事務室、調査員室、作業室、予備室、収蔵庫を設置している。この収蔵庫は、出土遺物の中でも、報告書に図示され、借用や調査依頼の多い資料や、これまでの調査図面や写真フィルムなどの重要な資料を保管している。作業室は、実測などの作業をはじめとする整理作業を行う部屋で、報告書などの文献を保管している書架も置いている。予備室は、写真撮影や小規模な打ち合わせなどをを行う補助的なスペースとしている。

現在、これらの施設の中で課題となっているのは、収蔵庫に保管している過去の調査図面やスライド・ネガフィルム等の劣化に関する問題である。収蔵庫は、通常の教室を改修したものであり、太陽光は遮断できる状況ではあるものの、収蔵庫として適切な環境とは言えない。そのため、これらの資料の経年劣化は避けられないものと考え、アナログ資料のデジタル化作業を進めている。最も良い対策は、収蔵庫を適切な環境となるように改修すべきではあるが、予算などの都合上やむを得ないと考えている。今後、収蔵庫の温湿度のデータをとりつつ注意深く経過を観察する必要がある。

また、2001年度より本製品・金属製品等の保存処理作業を行なう保存処理作業棟（プレハブ平屋建・79m²）が、同じ片平キャンパス内の生命科学研究科本館（D05）の南西側に設置された。その他には、保存資料作業棟北側のガレージの一部（34m²）を使用し、当室の公用自動車を保管しているほか、発掘調査用機材も保管している。2003年度には、出土遺物の収蔵庫として保管倉庫（プレハブ2階建・202m²）を保存処理作業棟の南側に設置し、報告書掲載以外の遺物等を保管している。今後は、東日本大震災以降において急増した発掘調査の整理作業の進行と共に、これらの遺物の保管場所は手狭になることを予想しており、収蔵遺物の密集化、新たなスペースの確保等が必要となっている。

表2 2018年度埋蔵文化財調査室職員

職名		氏名等	備考
調査室長	総合学術博物館	藤澤 敦	併任
文化財調査員	特任准教授	菅野 貴嗣	
	専門職員	柴田 恵子	
	専門職員	石橋 宏	
事務補佐員	時間雇用職員	武山 里美	埋蔵文化財調査室運営費を財源とした職員
整理作業員	時間雇用職員	4名（通常3名、半年1名）	全学的基盤経費を財源とした職員

3. 運営委員会・調査部会

東北大学埋蔵文化財調査室では、埋蔵文化財調査室規程第6条に基づき運営に関する重要事項を審議する運営委員会と、同規定第9条に基づいて運営委員会の下に埋蔵文化財調査に関する専門的事項を審議する調査部会が設置されている。当調査室は、これらの委員会・部会の審議をもとに運営が進められている。通常は、運営委員会は年度当初に一回開催し、年間の事業予定・予算等などの基本的事項を審議している。調査に関わる具体的かつ専門的な事項は、必要に応じて調査部会を開催して審議することとしている。

2018年度は、運営委員会を2018年5月8日に実施した。運営委員会の議事内容は、以下の通りである。この運営委員会では、下記のような内容が審議された。

埋蔵文化財調査室運営委員会（2018年5月8日、於：施設部会議室）

審議事項

- (1) 室長について
- (2) 平成29年度埋蔵文化財調査結果及び平成30年度の埋蔵文化財調査計画
- (3) 平成29年度調査室運営費決算及び平成30年度調査室運営費予算
- (4) 平成29年度の整理作業結果及び平成30年度の整理作業計画
- (5) その他

報告事項

- (1) 広報・活用事業
- (2) 受託研究
- (3) その他

III. 2018年度（平成30年度）事業の概要

1. 埋蔵文化財調査の概要

2018年度は、立会調査8件（うち学内措置による立会調査1件）を実施した（表3）。本学敷地内の立会調査に関しては、2009年度途中から、仙台市教育委員会の指示に従い、当室が立会調査を行っている。その他には、仙台市教育委員会から指示を受けた慎重工事1件があった。

川内北地区では、川内駅前広場の時計台設置に伴う立会調査のほか、ごみ集積用物置の老朽化に伴う既存物置の撤去及び新設物置の基礎設置工事に伴う立会調査と、現行の建築基準法に不適格で、安全対策が必要なプロック塀の基礎対策工事に伴う立会調査があった。

川内南地区では、前年度より引き続き、川内南地区雨水排水改修工事に伴う立会調査を行った。この調査は、近年多発している集中豪雨や規模の強い台風等に対応するためのものである。その他には川内北地区同様プロック塀対策工事に伴う立会調査と、植物園前庭の案内板の更新工事に伴う立会調査があった。

青葉山地区では、学内措置として、植物園の見晴台の案内板更新に伴う立会調査1件を実施している。

富沢地区では、給水管の漏水復旧工事に伴う立会調査が2件あった。

東日本大震災以後、大規模な開発事業が一段落し、建物等の施設改修や自然災害に対する備えに関する事業が増えている。今後、この様な状況が続くものと想定できる。学内関連機関のほか、仙台市教育委員会、宮城県教育委員会等と緊密に協議しながら、埋蔵文化財を保護するために調整・対応を推進していきたい。

（1）川内北地区の調査

川内北地区では立会調査3件を実施している（図3）。そのほかには、外構修繕工事（2018-1）は慎重工事の指示を受けた。

・点字ブロックその他工事（2017-16）

本立会調査は、視覚障害者誘導用ブロックの整備及び地下鉄川内駅前広場前時計台の設置工事に伴うものである。2017年度から継続して工事が行われ、立会調査が指示された時計台の工事は2018年度に実施された。掘削深度は浅く、現代の造成土の範囲内に収まり、特に問題はなかった。

表3 2018年度調査概要表

調査の種類	地区	調査地点（略号）	原因	調査期間	面積（m ² ）
立会調査	川内北	川内駅前（2017-16）	（川内1）川内北地区点字ブロックその施工事	前年度より継続 2018/4/4	-
	川内北	サークルG棟裏側（2018-2）	（川内1）川内北キャンパス物置基礎改修工事	2018/10/16	-
	富沢	守衛所北側（2018-3）	（富沢）漏水復旧工事	2018/10/19	-
	川内南	文化系会議棟周辺・文学研究科棟周辺・法學部研究棟周辺・附属図書館周辺（2018-4）	（川内1）川内南地区雨水排水改修工事Ⅲ	2019/1/10-15-18-21-25-28/4/3-4/8-13-15-18-20-22-23-25-26-28	-
	川内南	植物園東側（2018-5）	（川内1）植物園案内板更新工事	2018/12/6	-
	富沢	第三実験室南側（2018-6）	（富沢）電子先端学研究センター給水管復旧工事	2018/12/12-13	-
	川内北 川内南	川内テニスコート周辺・植物園入口周辺（2018-7）	（星野他）基幹・環境整備（ブロック塀対策）工事	2019/2/18-20-27-3/7	-
学内措置	青葉山	植物園内見晴台（2018-5）	（川内1）植物園案内板更新工事	2018/12/6	-

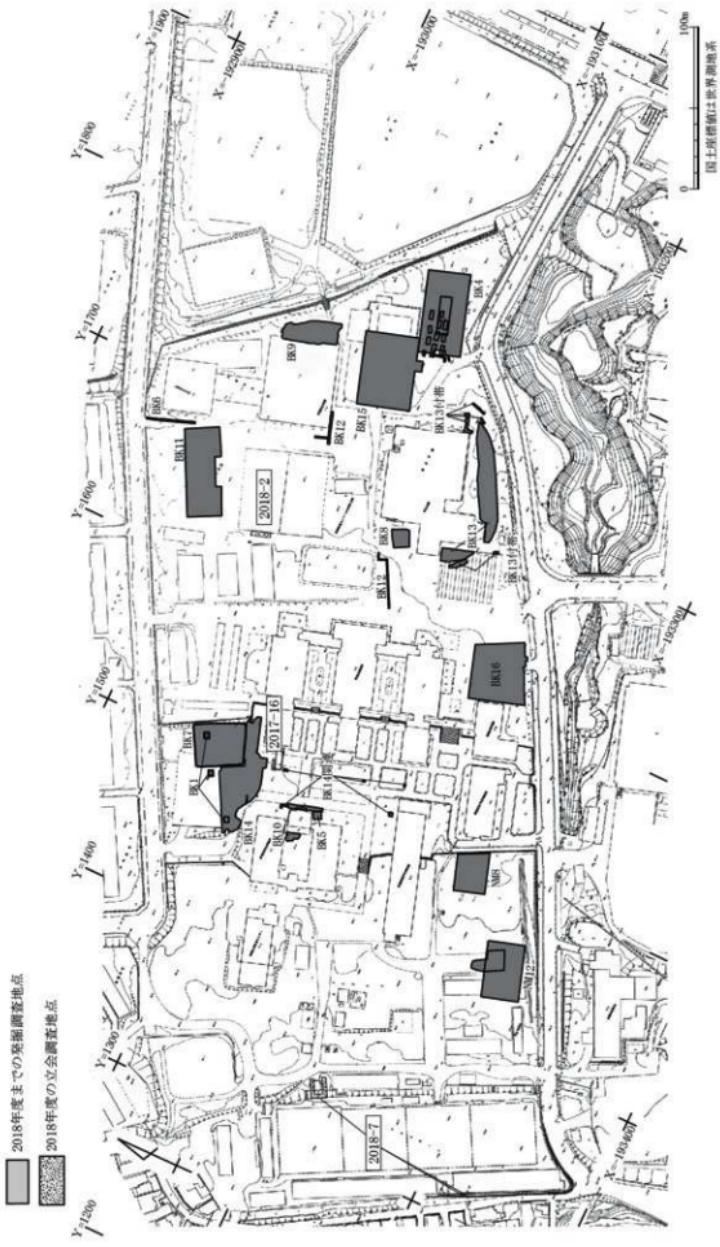


図3 川内北地区調査地点

・物置基礎改修工事（2018－2）

本立会調査は、現在設置されているごみの集積用物置の老朽化に伴い、既存物置の撤去と新設のための基礎の設置に伴うものである。掘削深度は浅く、現代の盛土の範囲内に収まり、問題はなかった。

・基幹・環境整備（ブロック塀対策）工事（2018－7）

大学構内に現存し、現行の建築基準法に不適合で安全対策が必要なブロック塀について、撤去及び鉄筋コンクリートによる補強、その他ブロック塀脇の一部フェンスが途切れる部分については、新たにネットフェンスを設置することになった。本立会調査は、ブロック塀補強及びフェンスの新設に伴うものである。

テニスコート東側の駐車場内に位置する窓場を覆うブロック塀を鉄筋コンクリートにより補強する工事において、西側の斜面に接する範囲は現代の造成土の下に地山灰白色シルト質土とその下層の段丘疊層を確認した。上部の堆積層は既に失われており、問題はなかった。その他の範囲は、現代の造成土の範囲内に収まり、問題はなかった。近接してテニスコート西側の道路と大学敷地の境界に一部フェンスの追加を行う基礎設置工事は、掘削深度は浅く全く問題はなかった。

（2）川内南地区の調査

川内南地区では立会調査3件を実施している（図4）

・川内南地区雨水排水改修工事Ⅲ（2018－4）

近年の集中豪雨により、植物園裏の青葉山からの雨水が大量に溢れ出し、川内南キャンパス南西部全体が浸水する状況が見受けられた。これは、埋設配管や集水樹等の雨水排水経路が、経年劣化のためのずれや破損、あるいは被損箇所から樹木の根が入り込むことによる詰まり等によるものと考えられた。この問題を解決するため、既存の雨水排水管等を撤去し、新たな雨水排水経路を敷設する4ヶ年の工事計画が策定され、2016年度から工事が開始された。本工事は4ヶ年の工事計画のⅢ期工事である。

川内南キャンパスは国指定史跡仙台城跡の二の丸地区に該当し、仙台市による『仙台城跡整備基本計画』（仙台市教育文化課2005）においては、「仙台城跡整備基本構想対象地域」内に位置し、将来的に国指定史跡を目指す第四種保存地区に指定されている地域である。2018年10月26日当調査室と施設部担当係（建築第二係、建築マネジメント係）が仙台市教育委員会生涯学習部文化財課に赴き、掘削の内容や埋蔵文化財に与える影響等について協議した。その協議を踏まえ、当工事を着工することになった。

2018年度の立会調査は、2019年1月10日から2019年3月28日まで断続的に実施した。F路線（図4）の掘削は終了したものの、W路線とU路線の一部は来年度に持ち越しとなった。

まずF路線の既存樹と既存管を現して既存樹・既存管の大きさや位置状況を確認してから撤去工事を行った。F1樹からF5樹までの区間（図4）は、既存樹・既存管の掘方下に江戸期の整地層と推定される黄橙色及び青灰色シルト質土が確認され、一部碎石層を薄くして、この層が傷つかないように対応した。また、F9樹（図4）の掘方下に、瓦を多く含む灰黄色シルト質土が確認され、同様に碎石層を薄くして対応した。U路線は、既存管内に折りたたまれた形状記憶硬質塩化ビニール管を入れて蒸気で円形に復元するオメガライナー工法を採用した。そのため、既存管を再利用することになり、掘削は既存樹の撤去に伴うものである。U4樹（図4）の掘削の際に樹底部周間に暗橙褐色シルト質土の盛土を確認した。江戸期の盛土の可能性を考慮し、解体用の重機を使用して樹を上部に吊り上げることにより樹下部周間の盛土を傷つけないように対応した。

それ以外の場所は既存管・樹の掘方や既存建物の造成土内に収まり、問題はなかった。

・植物園内案内板更新工事（2018－5）

植物園東側の前庭内に於ける木製の案内板は老朽化が進んでおり、この案内板を撤去し、景観に配慮し、より多くの情報を掲示できる案内板を設置することになった。本立会調査は、新しい案内板の基礎設置に伴うものであ

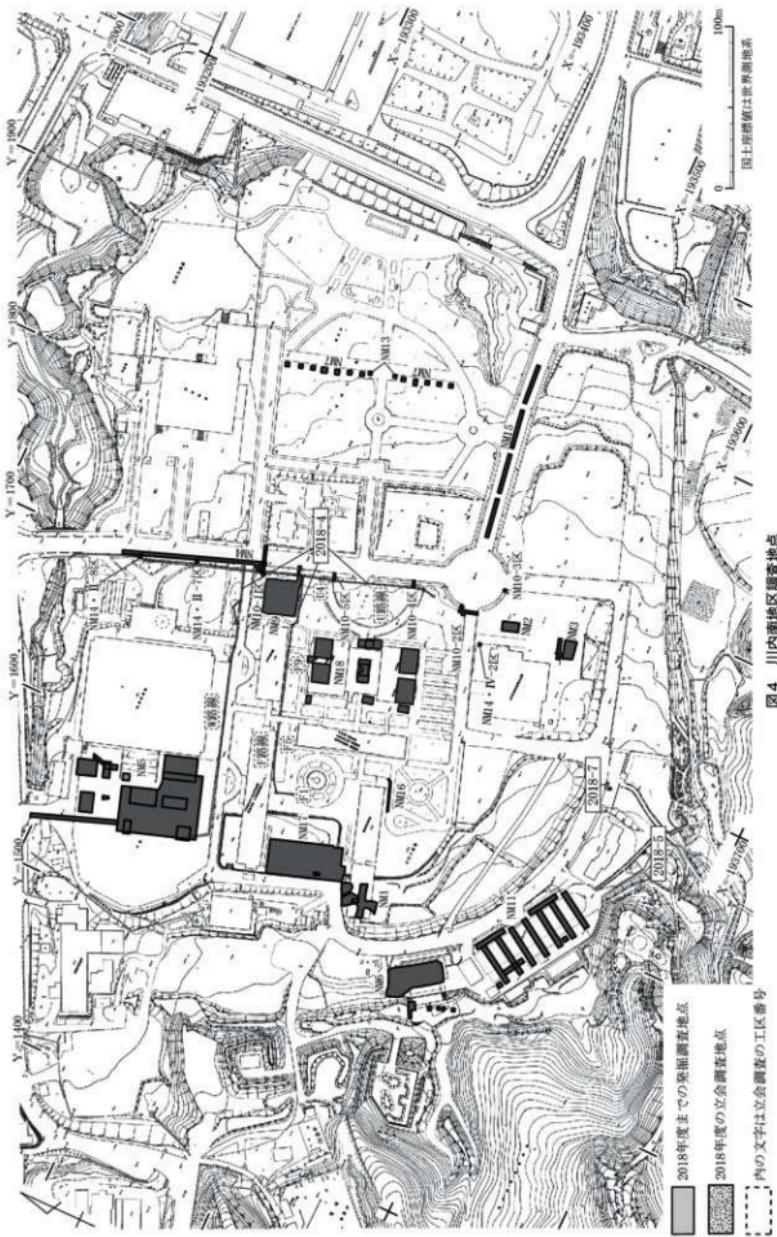


图 4 川内南地区調查地点

る。大部分は隣接する現代の側溝に伴う造成で既に掘削されていたが、南側端部は造成土下に地山の黄橙色粘土質土が確認された。既に上部の堆積層は失われており、問題はなかった。

・基幹・環境整備（ブロック塀対策）工事（2018-7）

川内北キャンパスと同様の工事であり、本立会調査は、植物園入口のブロック塀の撤去及びアルミ鋳物フェンスの新設に伴うものである。米軍期の造成土とその下部に段丘疊層の上面を確認した。上部の堆積層は既に失われており、特に問題はなかった。

（3）青葉山地区の調査

青葉山地区では、学内措置に伴う立会調査1件を実施している（図5）。

・植物園案内板更新工事（2018-5）

植物園前庭において行なわれた案内板更新工事と同時に、園内における天然記念物青葉山の見晴台の案内板も更新することになった。径の小さい既存基礎孔の再利用のため立会の指示はなかったが、学内措置として見晴台周辺の平場の地層確認の目的で、立会調査を実施した。その結果、表土下に地山段丘疊層を確認し、上部の堆積層が既に失われていることを確認した。

（4）富沢地区の調査

富沢地区では、立会調査2件を実施した（図6）。

・漏水復旧工事（2018-3）

10月16日に電子光力学研究センターの敷地入口周辺の通路舗装面に湧水があることがわかり、翌17日に漏水調査を実施したところ給水管に漏水があるとの結果が確認された。給水管が50年を経過したビニール管であり、大漏水の可能性もあるため、仙台市教育委員会文化財課と協議の上、19日に緊急漏水工事の立会調査を実施することになった。漏水箇所は入口にある守衛所脇と、入口から研究棟の通路上の2箇所である。

研究棟側は舗装下の既存給水管の位置を確認するため、慎重に掘削したが、舗装下は、陸軍幼年学校に関わると推測される砂疊層が確認され、その下層は地山の灰白色粘土層であった。遺構の有無を確認した上で、一部地山粘土層を掘削したが、基本的には既存給水管の掘方内に収まるように復旧工事を実施した。守衛所脇はバルブ周辺の漏水のため、漏水箇所を直ちに特定でき、バルブと給水管の掘方の範囲内で復旧工事が收まり、2箇所とも特に問題はなかった。

・電子光力学研究センター給水管配管復旧工事（2018-6）

12月10日に水道量検針値の増加が確認され、11日に電子光力学研究センター第三実験室に入る埋設給水管付近において漏水らしき箇所が確認された。12日に仙台市教育委員会文化財課と相談の上、当調査室立会のもと漏水位置を特定した。漏水量が多量であったため、急遽13日に復旧工事を行うことになった。給水管は共同溝の脇に埋設されており、掘削は共同溝と既設管の掘方の範囲内に收まり、特に問題はなかった。

2. 遺物整理作業

（1）仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第14地点（BK14）の整理作業

本調査は、仙台市営地下鉄東西線川内駅前広場整備工事に伴うものである。2011・2012年度、2014・2015年度と、他の調査との兼ね合いによる一時中断をはさんで調査を進めた。この調査では、井戸や建物跡、溝、柱列などの近世の遺構が多数検出され、遺物も近世の陶器、土器、瓦、木製品などが平箱79箱分出土している。

2018年度は、発掘調査時の遺構図面の編集、遺構写真の編集、報告書を刊行するための図版作成を行った。出土遺物については、前年度までに、分類・接合作業の後に、全遺物の集計作業を終了している。本年度は、図化

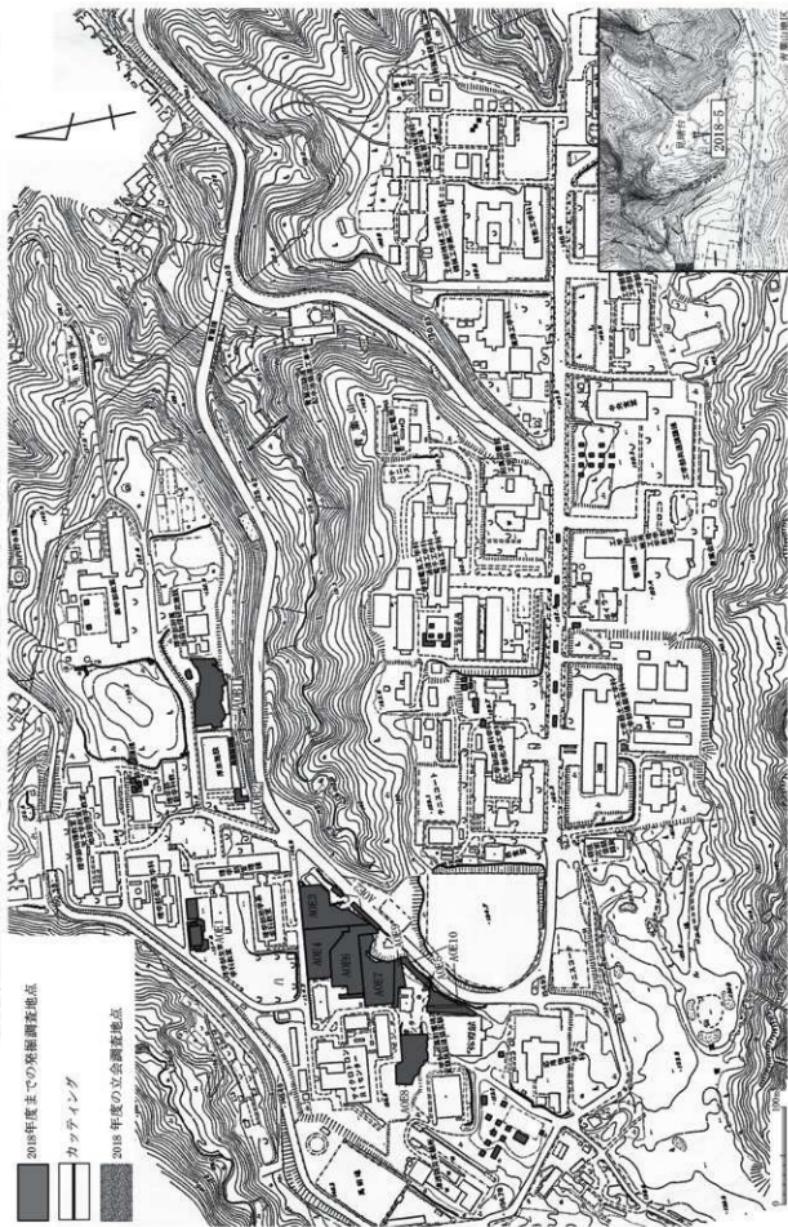


図5 青葉山地区調査地点

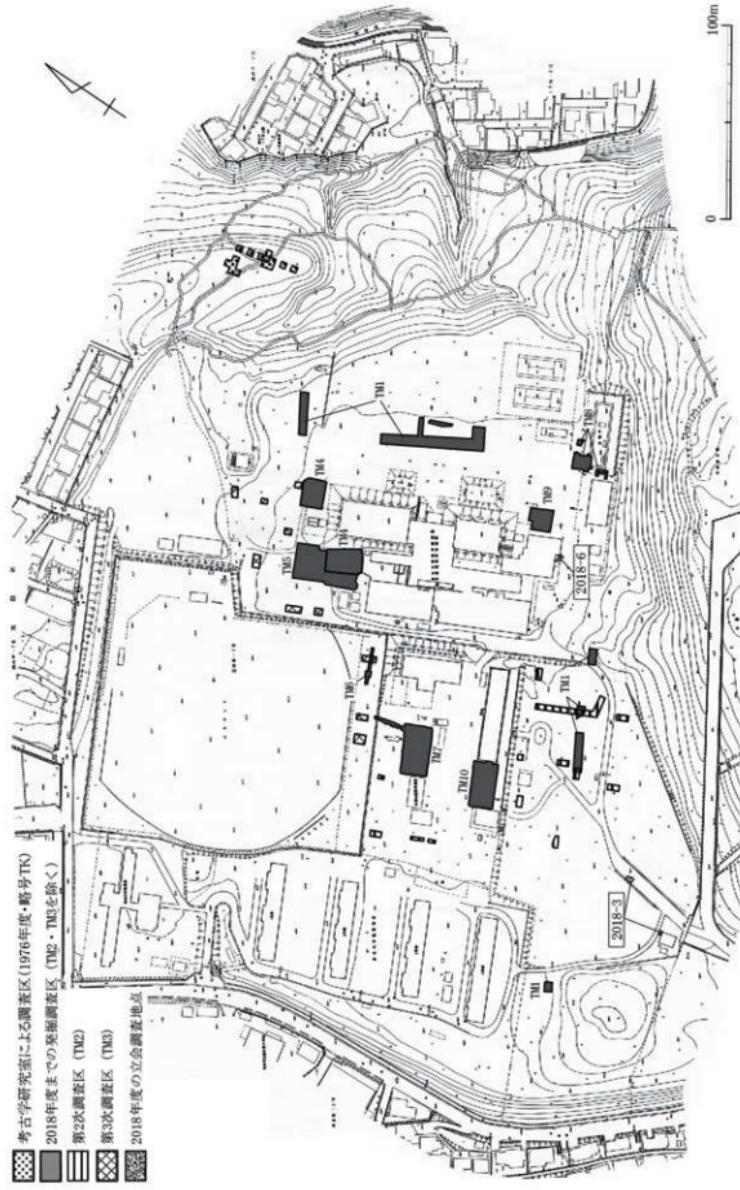


図6 富沢地区調査地点

する遺物を抽出し、順次、実測図作成と資料観察・分析・属性抽出などの作業を行っている。漆塗製品と木製品については、分類・集計・図化などの作業中は水漬けにし、冷蔵庫で一時保管をしている。図化しない木製品については、保存処理の工程に進んだ。金属製品については、図化するための銷取り作業を行った。また、その他の有機質の遺物等については、各専門家に分析を依頼した。

(2) 仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第15地点（BK15）の整理作業

本調査は、課外活動施設新營に伴い、2012～2014年度に実施した。本調査では、調査面積が1503m²と広く、多種多様な近世の遺構が検出されている。それに伴う遺物も、近世の陶磁器、瓦、木製品等が115箱と非常に多く出土している。2018年度は発掘調査時の空撮測量図面や手書き遺構図面の整理等の作業を行っている。遺物については、注記作業のほか、出土遺構・層ごとにまとめ直し、遺物の種類別に分類を行った。

(3) 青葉山E遺跡第10次調査（AOE10）の整理作業

本調査は、仙台市営地下鉄東西線青葉山駅の屋外環境整備（駅前広場）に伴い2015年度に実施した。調査面積は56.9m²で、遺物は縄文時代中期の土器や石器を中心に、5箱分が出土している。2018年度は、測量図面の整理、調査写真の整理、遺物の注記等の作業を行っている。

3. 年次報告・調査報告の刊行

2018年度は、「東北大學理藏文化財調査室年次報告」2017を印刷刊行した。この「年次報告」2017には、2017年度に調査室が行った各種事業と、確認調査2件、立会調査16件の概要を掲載した。

4. 保存処理事業

当室では、仙台城跡の出土遺物を中心に、木製品・漆塗製品・金属製品等、保存処理を必要とする遺物を多数保管している。この中で、木製品・金属製品については、当室で保存処理を進めている。

木製品については、1997年度以降、糖アルコール法によって処理している（『調査年報』16）。一部の大型製品を除くと、2010年度までの調査で出土した木製品については、保存処理は終了している。2011年度以降、2015年度まで規模の大きな発掘調査が継続しており、木製品も多数出土した。2018年度は、2011～2015年度の調査のうち、仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第14地点（BK14）、第15地点（BK15）については、分類や集計作業が終わり、図化しない抽出外木製品の保存処理作業を引き続き行った。また、報告書を刊行した仙台城跡二の丸地区第18地点（NM18）、仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第16地点（BK16）については、図化して報告した木製品についての保存処理を引き続き行った。

銅製品は、2012年度までの作業によって、2010年度調査以前に出土したものについては、保存処理を終了している。しかし、保存処理体制が整う2000年度以前の調査で出土した銅製品を再確認したところ、未処理のままとなっていた資料が若干確認された。そのため2012年度から計画的にこれらの銅製品の保存処理作業を行っており、2018年度も未処理となっていた銅製品の処理を行った。また、2015年度に報告書の刊行を終えた仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第16地点（BK16：『調査報告』5）の調査で出土した銅製品の処理作業を継続している。

鉄製品については、釘をはじめとして大量の遺物が出土しているが、図化して報告した資料以外は、ほとんどが未処理のままである。前年度に引き続き、これら未処理のままとなっていた鉄製品の状況を確認するとともに、保存処理を行っている。また、鉄製品についても、2015年度に報告書を刊行した仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第16地点（BK16：『調査報告』5）の調査の保存処理作業を継続している。

また、武家屋敷地区第14地点では、糞や網代などの有機質素材が用いられている遺構を検出した。これらは調

査時に発泡ウレタンを用いて、箕や網代の編み方を壊さないようにそのまま取り上げている。これら特殊な有機質資料については、PEG（ポリエチレンゴリコール #4000）を用いて保存処理を行った。PEG水溶液を20%濃度から資料表面に塗布し、徐々に濃度を上げながら資料表面全体がPEGで白く固化するまで塗布を続けた。白く固化したPEGをドライヤー等で溶かして資料表面を露出し仕上げを行っている。

5. 資料保管状況

東北大学埋蔵文化財調査室では、ほとんどの遺物は容量30.3リットルのコンテナ（ポリプロピレン製・サンゴー社製サンボックス#32）に収納している。このコンテナに入らない大型のものについては、さらに大きなコンテナや、適宜木箱を作成して収納している。また2009年度より、収藏用の箱に木製箱を採用している。油脂製のコンテナは、火災の際に甚大な被害を受けるのに対して、木製箱は耐熱性が高く火災時に燃焼するまでの時間が長いことが明らかとなっている。そのため当室では、整理作業後の収藏保管にあたっては、油脂製箱から木製箱へ取り替えていくこととし、2009年度から一部は木製箱へ詰め替えを行っている。2018年度までに、247箱分について、木製箱に詰め替える作業を終えている。

遺物の全体量を把握するために、容器の種類や大小にかかわらず、箱の数で数量を管理している。ただし、木製品や金属製品等保存処理を行う必要のあるものは、別に保管しているため、この中には含まれていない。埋蔵文化財調査委員会が発足した1983年度からの、遺物総量の推移を箱数で比較したのが、表4、図9である。

2018年度の調査によって、新たに増加した箱数はない。また、2018年度は、新たに整理作業が完了した調査もないため、整理報告済みの箱数は2899箱のままである。未整理のものは277箱、合計の遺物総量は、3176箱であり、整理・報告済みのものの比率は91.3%である。

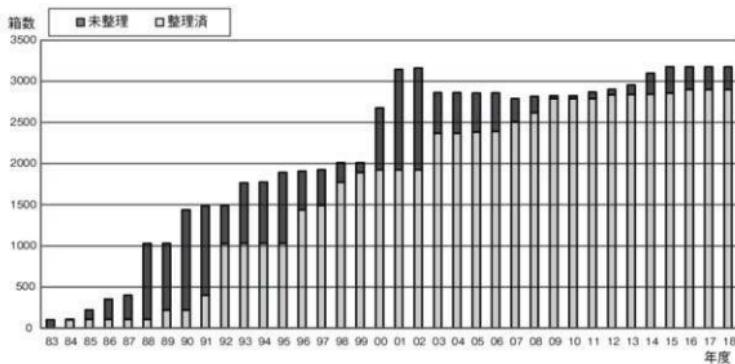


図9 収蔵遺物量の推移

表4 年度ごとの収蔵遺物箱数の推移

年度	未整理箱数	整理済箱数	合計箱数	備考
1983	104	0	104	
1984	4	104	108	年報1 (1983年度調査分) 刊行
1985	113	108	221	年報2 (1984年度調査分) 刊行
1986	245	108	353	
1987	293	108	401	
1988	920	108	1,028	
1989	811	221	1,032	年報3 (1985年度調査分) 刊行
1990	1,218	221	1,439	
1991	1,086	401	1,487	年報4・5 (1986・87年度調査分) 刊行
1992	463	1,028	1,491	年報6 (1988年度調査分) 刊行
1993	732	1,032	1,764	年報7 (1989年度調査分) 刊行
1994	742	1,032	1,774	
1995	861	1,032	1,893	
1996	469	1,439	1,908	年報8 (1990年度調査分) 刊行
1997	435	1,491	1,926	年報9・10 (1991・92年度調査分) 刊行
1998	236	1,774	2,010	年報11・12 (1993・94年度調査分) 刊行
1999	117	1,893	2,010	年報13 (1995年度調査分) 刊行
2000	751	1,926	2,677	年報14・15・16 (1996・97・98年度調査分) 刊行
2001	1,216	1,926	3,142	年報17 (1999年度調査分) 刊行
2002	1,234	1,926	3,160	
2003	491	2,370	2,861	二の丸第17地点整理後詰め直し等で箱数減少
2004	491	2,370	2,861	年報18 (2000年度調査分) 刊行
2005	472	2,384	2,856	年報19-1・20 (2001・02年度調査分) 刊行
2006	467	2,391	2,858	年報19-3・21 (2001・03年度調査分) 刊行
2007	281	2,507	2,788	年報19-4・22 (2001・04年度調査分) 刊行
2008	198	2,619	2,817	年報19-2・23 (2001・05年度調査分) 刊行
2009	34	2,790	2,824	年報19-5・24 (2001・06年度調査分) 刊行 地下鉄補償関係調査整理作業終了
2010	34	2,790	2,824	
2011	78	2,790	2,868	調査報告1 (武家屋敷地区第11・12地点) 刊行
2012	65	2,836	2,901	調査報告2 (武家屋敷地区第13地点) 刊行
2013	116	2,838	2,954	調査報告3 (芦ノ口道路第7・8次調査) 刊行
2014	254	2,843	3,097	調査報告4 (青戸山E道路第9次調査・芦ノ口道路第9次調査) 刊行
2015	319	2,857	3,176	調査報告5 (武家屋敷地区第16地点) 刊行
2016	277	2,899	3,176	調査報告6 (御台城路二の丸地区第18地点) 刊行
2017	277	2,899	3,176	
2018	277	2,899	3,176	

6. 研究活動

(1) 受託研究・共同研究等

2018年度は、下記の受託研究1件を実施した。

題 目：長崎II遺跡出土金属製品の保存処理に関する研究

受 託 者：岩手県山田町長 佐藤信逸（担当：山田町教育委員会生涯学習課文化係）

研究課題：長崎II遺跡出土金属製品の保存処理に関する研究

研究目的：長崎II遺跡出土金属製品を資料として効率的な金属製品の保存処理方法について研究する。

対象資料：長崎II遺跡出土金属製品4点（板状金属製品2点、不明鉄製品2点）

研究期間：2018年9月1日～2019年3月15日

研究経費：800,000円

実施体制：研究担当者の菅野智則、柴田恵子、石橋宏、千葉直美のほか、松井敏也（筑波大学大学院人間総合科学研究科）の指導を得た。

研究内容：

1. 保存処理方法構築のためのモニタリング調査

出土鉄製品の保存処理を実施するにあたり、資料にどのような腐食生成物（さび）が発生しているかを調査し、その種類を同定することで、その資料に含まれる塩化物イオン（Cl⁻）や硫酸イオン（SO₄²⁻）など腐食促進因子

のひとつである陰イオンの存在をある程度推察することができる（松井2009）。その種類と脱塩処理における抽出陰イオン濃度との因果関係を知ることができれば、より効率的な脱塩処理を実施することが可能となる。

本研究では、資料のさび瘤内で観察されたさびの種類から、塩化物イオン (Cl^-) や硫酸イオン (SO_4^{2-}) の存在を予測し、実際にそのさび瘤を脱塩処理した際に脱塩水の陰イオン濃度を測定して確認することと、脱塩温度の違いにより、脱塩効果に違いが見られるのか確認することを目的とした。

さびの形状から、ほとんどの試料に陰イオンの存在の可能性が高いと予測したもの、脱塩時の陰イオン抽出量とは必ずしも合致しておらず、肯定的な傾向は見て取れなかった。今回の実験では、試料の重量を測定しているものの、これは対応する特徴的なさびの量を反映しているものではない。陰イオンの抽出量の少なかった試料は、特徴的なさびの量が少なかった可能性もある。今後は新たなアプローチでデータの蓄積を図り、再度検討したい。

また、今回の脱塩実験では、30℃加温スタートのいくつかの試料に、陰イオンの抽出量が一旦は低くなったものの、脱塩条件を変更した際に陰イオンの抽出量の増加が認められた。これは、30℃加温の場合は、75℃加温の場合に比べて陰イオンの抽出が緩やかであり、陰イオンの抽出がまだ継続中であったことを示していると推測できる。このようなことから、脱塩温度を当初より75℃にしたほうが効率的であると言える。

2. 金属製品保存処理

①洗浄

搬入前、資料に付着していた土や砂などを洗浄し、洗浄後は資料をエチルアルコールに浸漬して脱水し、乾燥させた。

②現状調査

処理に先立ち、実体顕微鏡下で有機質等の付着物の有無や腐食生成物（さび）の位置や種類等を確認し、図示や写真撮影による記録を行った。

③クリーニング

まずは、ニッパーなどで大きなさび瘤等を切除し、その後、実体顕微鏡下にてデザインカッターやグラインダーなどを用いて腐食生成物（さび）の除去を行った。仕上げにエアブラシ（アルミナの粉を圧縮空気で噴射）をかけ、デザインカッターやグラインダーでは除去しきれない腐食生成物（さび）の除去を行った。クリーニング終了後、資料写真を撮影し、実測図を作成した。

④脱脂処理

資料に付着している油分や、前工程のエアブラシ使用で付着したアルミナの粉を除去するために、資料をアセトンに浸漬して脱脂を行った。

⑤脱塩処理－熱対流脱塩法（純水（サンヒビターNO.50添加）75℃加温オノフ浸漬）

ステンレス容器に、沈着さびの発生を抑えるための防錆剤サンヒビターNO.50（アミン系非イオン界面活性剤、三洋化成工業㈱）0.5%を添加した純水（資料重量の30倍量）を入れ、資料を浸漬した。その容器を75℃に設定したホットプレート（AS ONE NEO HOTPLATE HI-1000）上にセットし、3時間ごとに加温のオンオフを繰り返して浸漬水に熱対流が起こるようにした。1日間の浸漬後、脱塩状況を確認するため、浸漬水の導電率と塩素イオン濃度と硫酸イオン濃度を測定した。浸漬水の塩素イオン濃度と硫酸イオン濃度の測定結果によって純水の濁け換えを繰り返し、浸漬水の塩素イオン濃度および硫酸イオン濃度が低く一定となったことを確認して脱塩終了とした。

⑥脱水処理

次工程の合成樹脂含浸の前に、資料中に含まれる水分を完全に除去することが必要である。残留水分はさびを誘発するため、水分の除去は特に重要となる。資料内の水分を揮発性の高いエチルアルコールに置換するためエ

チルアルコールに資料を浸漬した。完全なる置換を図るため、再度新たなエチルアルコールに資料を浸漬し、乾燥させた。

⑦合成樹脂含浸

資料の強化および外気との遮断のため、アクリル系合成樹脂（バラロイドNAD10）を資料に含浸した。バラロイドNAD10・ソルベントナフサ20%溶液に資料を浸漬し、減圧含浸したのち常圧含浸した。合成樹脂のコーティング効果を高めるため、乾燥後、再度同様の樹脂含浸を行った。

⑧接合・補填・補彩

接合には、エポキシ系接着剤（アラルダイトラピッド）を用いた。今回の資料については、補填・補彩箇所はなかった。

3. 報告書作成

処理後の資料写真を撮影し、作業過程および結果をとりまとめた報告書を作成した。なお、それぞれの資料の状態や処理工程については資料ごとの報告書を作成し末尾に添付した。

(2) 学会発表・原稿依頼等

- ・仙台城跡二の丸地区第18地点出土木簡に関する原稿依頼

4月27日 本簡学会より、標記の資料に関して、「木簡研究」40号に掲載する「2017年出土の木簡」への執筆依頼を受けた。柴田が担当した。

(3) 科学研究費採択状況

2018年度において、当室の職員で科学研究費の代表として交付を受けたものはなかった。ただし、基盤研究(B)（研究課題番号16H03504）「古墳分布北縁地域における地域間交流解明のための実証的研究」（代表：菊地芳朗 福島大学）の分担者として、石橋が分担金260,000円（直接経費200,000円、間接経費60,000円）を配分された。

7. 教育普及活動

(1) 非常勤講師

- ・菅野智則 東北大学大学院文学研究科・文学部 考古学概論（後期）「日本考古学概説」

(2) 授業等教育活動への協力

- ・東北大学総合学術博物館 博物館学実習VI「館園実習」

東北大学総合学術博物館が実施している実習（博物館学実習VI「館園実習」担当：総合学術博物館藤澤教教授）の依頼を受けて、2018年9月10日に埋蔵文化財調査室にて実施した。当室における考古学資料の収藏状況、保存処理に関する講義を行った。参加者は12名である。この概要については、11月に刊行された東北大学総合学術博物館ニュースレター「Omnividens」No.58に掲載されている。

- ・東北大学総合学術博物館 富沢団地における遺跡発掘調査

東北大学総合学術博物館から依頼を受け、学生の実習を兼ねた富沢団地内の芦ノ口遺跡の発掘調査（11月18日～12月14日）に協力した。

- ・歴史資料保全の大学・共同利用機関ネットワーク事業東北大拠点 歴史資料保全コーディネーター講座

標記の講座が2月27日～3月1日に開催された。東北大学学術資源研究公開センターから依頼を受け、2月28日「様々な資料の保全②：考古学資料」として、埋蔵文化財調査室の収藏状況や資料の管理体制について菅野が担当し講義を行った。

(3) 展示活動

・川内萩ホール展示ギャラリー常設展

この事業は、2011年度から継続的に実施しており、これまでの経緯は『年次報告』2015に記載してある。2016年度より、本学総務企画部広報課社会連携推進室編集・発行のまなび情報誌「まなぶひと」において広告を掲載している。また、川内萩ホールのホームページでも紹介されている（<http://www.bureau.tohoku.ac.jp/hagihall/facility/gallery.html>）。

・企画展示「川内キャンパスのむかしむかしⅡ～仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区～」

本学附属図書館エントランスロビー展示コーナーにて、川内北キャンパス出土遺物に関する企画展示「川内キャンパスのむかしむかしⅡ～仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区～」を3月27日～5月6日に行った。本展示は、新入生歓迎展示として、本学に新たに入学する学生を主な対象として実施したものである。展示会場は無人であるため正確な見学者数は不明であるが、設置しておいた目録の減少枚数からすると、最低200名程は見学したものと推定できる。

巡回展示として、同様の展示を5月14日～6月8日に本学片平キャンパスの史料館にて実施した。同様に、最低100名程は見学したものと推定される。

なお、2019年3月26日から次年度の新入生歓迎展示を実施しているが、次年度に報告したい。

・企画展示「東北大キャンパスにおける遠古の文化－青葉山遺跡群と芦ノ口遺跡－」

本学附属図書館エントランスロビー展示コーナーにて、青葉山遺跡群（青葉山キャンパス）と芦ノ口遺跡（宮沢園地内）の出土遺物に関する企画展示「東北大キャンパスにおける遠古の文化－青葉山遺跡群と芦ノ口遺跡－」を9月1日～10月28日に行った。本展示は、本学のホームカミングデーに合わせ実施したものであり、その当日の9月29日にはギャラリートークも行った。設置しておいた目録の減少枚数からすると、最低250名程は見学したものと推定できる。

巡回展示として、同様の展示を2019年1月15日～2月15日に本学片平キャンパスの史料館にて実施した。ギャラリートークは1月17日を行った。同様に、最低100名程は見学したものと推定される。

(4) 講演講師・協力依頼等

・平成30年度宮城県考古学会研究発表会（創立20周年記念大会）への共催依頼

4月13日 宮城県考古学会から、創立20周年記念事業となる平成30年度宮城県考古学会研究発表会（会場：東北大学川内南キャンパス）への共催依頼を受けた。この依頼を受け、当室所蔵遺物の展示等を行った。

・東北大学学術資源研究公開センター植物園「植物園の日」への協力

5月4日 東北大学学術資源研究公開センター植物園主催（協賛：日本植物園協会）のイベント「植物園の日」に協力し、「文化財からみる青葉山の歴史」と題したレクチャーと、青葉山内を巡検し、東北大学構内の文化財について解説を行った。

・広島大学総合博物館第13回企画展への展示協力

9月10日 広島大学総合博物館より、第13回企画展「大学と埋蔵文化財～キャンパスの遺跡・発見された文化財の魅力～」への協力依頼を受けた。この依頼を受け、展示パネルによる本学の埋蔵文化財と所属職員の研究内容の紹介の原稿を送付した。

(5) 保管資料の見学・貸出・掲載の依頼等

・仙台城跡二の丸地区第18地点礎石建物跡写真資料の借用・掲載

4月17日 宮城県考古学会から、『宮城考古学』20号への写真資料借用・掲載の依頼を受けた。

・芦ノ口遺跡出土土器の写真資料の掲載

4月23日 文学研究科考古学研究室館内魁生氏より、宮城県考古学会創立20周年記念事業におけるポスターセッションにて、芦ノ口遺跡第1次調査出土土器の写真を掲載するための依頼を受けた。

・近代資料の貸出

11月12日 仙台市教育委員会より依頼を受け、第69回文化財展「明治150年～文化財からたどる仙台の近代化」(12月5日～9日、仙台メディアテーク)のパンフレット・解説パネル掲載のため、写真資料（デジタル）7点の貸出を行った。11月22日には、同様に展示のため、出土遺物37点、写真資料（デジタル）2点の資料貸出を行った。

・所蔵資料の見学依頼

2019年1月22日 大石亜依氏より、出土遺物5点に関して見学依頼があった。

・南蛮人人形写真資料の貸出

2019年2月19日 凸版印刷株式会社より依頼を受け、仙台市のホームページ「伊達な歴史の新体験」(<https://www.sentabi.jp/culturalproperty/>)に掲載するため、南蛮人人形の写真資料（デジタル）を貸し出した。

(6) 外部からの派遣依頼等

・担当者：石橋 宏

①基盤研究（B）（研究課題番号16H03504）「古墳分布北縁地域における地域間交流解明のための実証的研究」
(代表：菊地芳朗 福島大学) 研究分担者

6月9日・10日 山形県埋蔵文化財センター 関連遺跡巡検と研究発表、シンポジウムに関する打ち合わせ

2019年2月23日 郡山市ピッグアイ7階市民交流プラザ 公開シンポジウム「古墳分布北縁地域の実態と交流」において「古墳文化北縁地域における北関東・畿内との関係－家形石棺と櫛櫛の検討から－」の題名で口頭発表

②シンポジウム「野本將軍塚古墳の時代」（主催：東松山市教育委員会） 講師

12月9日 東松山市民文化センター「東日本における櫛構造を持つ埋葬施設」口頭発表

③鳥根大学法文学部山陰研究プロジェクト「山陰地方における既掘考古資料の再検討による歴史文化遺産の活用と地域還元」（代表：岩本崇 鳥根大学） 客員研究員

7月31日、8月1日、2019年3月17日～19日に東北大学文化財収蔵庫において、鶯の湯病院跡横穴出土資料の国化作業に協力した。

(7) その他の広報活動

・調査室ウェブサイト (<http://web.tohoku.ac.jp/maibun/>)

この事業は、2011年度から実施しており、これまでの経緯は『年次報告』2015に記載してある。本年度も継続的に更新し、当室発行のリーフレット「埋蔵文化財調査室だより」や、様々なイベントについて掲載している。

・全国遺跡報告総覧 (<http://sitereports.nabunken.go.jp/ja>) における発掘調査報告書の公開

この事業には、2010年度に本学附属図書館が参加し、当室も当初の年度より附属図書館に協力している。全国遺跡報告総覧には、当室の調査報告書・年次報告書等を継続してアップロードし公開している。また、2016年度からは、附属図書館から依頼を受け、当室が中心となって本事業を進めている。

・リーフレット「埋蔵文化財調査室だより」の公開

当室の業務内容や構内遺跡をわかりやすく説明するため、これまでに、川内南地区（仙台城跡二の丸地区）、川内北地区（仙台城跡北方武家屋敷地区）、青葉山地区（青葉山遺跡群）、宮沢地区（芦ノ口遺跡）、埋蔵文化財調査室の業務内容（発掘調査と整理作業）、構内遺跡出土遺物（陶磁器）、保存処理に関して作成した。これらの

リーフレットは、ウェブサイトからダウンロードできる。

・東北大学広報誌「まなびの杜」No.85への掲載

9月30日に刊行された「まなびの杜」No.85に、「まなびの杜」編集委員会より依頼を受け、「歴史資源としての埋蔵文化財」（担当：菅野）と題して学内の埋蔵文化財の紹介を行った。

・「東北大新聞」448号への掲載

10月23日に刊行された「東北大新聞」448号において、企画展示「東北大キャンパスにおける遠古の文化－青葉山遺跡群と芦ノ口遺跡－」に関するインタビュー記事「太古の文化に出会う 地下の遺跡に思い馳せ」が掲載された。

8.『仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第14地点 第1分冊』の訂正

2019年度に刊行した『仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第14地点 第1分冊』東北大埋蔵文化財調査室調査報告7の本文・図について、明らかな訂正があることが判明した。刊行と同時に作成し送付等している正誤表では漏れていたため、本年次報告にて訂正したい。また、以前に作成した正誤表と合わせ、当室のウェブサイトにアップロードする予定である。（東北大埋蔵文化財調査室Web <http://web.tohoku.ac.jp/maibun/>）

	訂正前	訂正後
54頁 13行目	次に <u>西部</u> 、最後に <u>北部</u>	次に <u>北部</u> 、最後に <u>西部</u>
54頁 24行目	そして <u>北部</u> へ	そして <u>北部</u> から <u>西部</u> へ
80頁 DG50	X 1	E 6

〈引用・参考文献〉

仙台市教育生涯学習部文化財課 2005 「仙台城跡整備基本計画」

東北大埋蔵文化財調査研究センター 2001 「東北大埋蔵文化財調査年報」16

東北大埋蔵文化財調査室 2016a 「東北大埋蔵文化財調査室年次報告」2015

東北大埋蔵文化財調査室 2016b 「仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第16地点」

東北大埋蔵文化財調査室調査報告5

東北大埋蔵文化財調査室 2019 「仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第14地点 第1分冊」

東北大埋蔵文化財調査室調査報告7

松井敏也 2016 「保存処理の動向と展望－無機質遺物－」『考古学と自然科学』71 pp.19-29

直接引用したもののみを掲載した。

IV. 資料

1. 国立大学法人東北大学埋蔵文化財調査室規程

平成6年5月17日 規第56号

(趣旨)

第1条 この規程は、東北大学埋蔵文化財調査室（以下「調査室」という。）の組織及び運営について定めるものとする。

(目的)

第2条 調査室は、東北大学（以下「本学」という。）の学内共同教育研究施設等として、本学の施設整備が円滑に行われるために、構内の埋蔵文化財に関する調査を行い、併せて資料の保管及びその活用を図ることを目的とする。

(職及び職員)

第3条 調査室に、次の職及び職員を置く。

室長

文化財調査員

特任准教授

事務職員

その他の職員

(室長)

第4条 室長は、調査室の業務を掌理する。

2 室長は、本学の専任の教授をもって充てる。

3 室長の選考は、第6条に規定する運営委員会の議を経て、総長が行う。

4 室長の任期は、2年とし、再任を妨げない。

(文化財調査員)

第5条 文化財調査員は、室長の命を受け、調査室の業務に従事する。

2 文化財調査員は、調査室の職員をもって充てる。

(運営委員会)

第6条 調査室に、その組織、人事、予算その他運営に関する重要事項を審議するため、運営委員会を置く。

(運営委員会の組織)

第7条 運営委員会は、委員長及び次の各号に掲げる委員をもって組織する。

一 キャンパス総合計画委員会の委員 若干人

二 発掘調査に関連のある専門分野の教授又は准教授 若干人

三 発掘調査地に関連のある部局の教授又は准教授で、その都度委員長が指名するもの

四 施設部長

(委員長)

第8条 委員長は、室長をもって充てる。

2 委員長は、運営委員会の会務を総理する。

3 委員長は、必要があると認めるときは、運営委員会の同意を得て、委員以外の者を運営委員会に出席させ、議案について、必要な説明をさせ、又は意見を述べさせることができる。

(調査部会)

第9条 運営委員会に、埋蔵文化財の発掘調査に関する専門の事項を調査審議させるため、調査部会を置く。

(調査部会の組織)

第10条 調査部会は、部会長及び次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- 一 調査室の特任准教授
- 二 文化財調査員
- 三 発掘調査に関連のある専門分野の教授又は准教授 若干人
- 四 施設部計画課長
- 五 発掘調査地に関連のある部局の事務部の長

(部会長)

第11条 部会長は、室長をもって充てる。

2 部会長は、調査部会の会務を掌理する。

(委嘱)

第12条 第7条第1号から第3号まで並びに第10条第3号に掲げる委員は、室長が委嘱する。

(任期)

第13条 第7条第1号から第3号まで並びに第10条第3号に掲げる委員の任期は、2年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

2 前項の委員は、再任されることができる。

(幹事)

第14条 運営委員会に幹事を置き、施設部計画課長をもって充てる。

(事務)

第15条 調査室の事務については、国立大学法人東北大学事務組織規程（平成16年規第151号）の定めるところによる。

(雑則)

第16条 この規程に定めるもののほか、調査室の組織及び運営に関し必要な事項は、室長が定める。

附 則

1 この規程は、平成6年5月17日から施行する。

2 東北大学埋蔵文化財調査委員会規程（昭和58年規第38号）は、廃止する。

3 東北大学公印規程（昭和46年規第17号）の一部を次のように改正する。

〔次のように〕略

附 則（平成16年4月1日規第207号改正）

この規程は、平成16年4月1日から施行する。

附 則（平成18年4月26日規第80号改正）

1 この規程は、平成18年4月26日から施行し、改正後の国立大学法人東北大学埋蔵文化財調査室規程の規定は、平成18年4月1日から適用する。

2 平成18年4月1日（以下「適用日」という。）の前日にセンター長の任にある者は、適用日において改正後の第4条第3項の規定により室長となったものとみなし、その任期は、同条第4項の規定にかかわらず、平成18年5月16日までとする。

附 則（平成19年4月1日規第76号改正）

この規程は、平成19年4月1日から施行する。

附 則（平成25年4月23日規第56号改正）

この規程は、平成25年4月23日から施行し、改正後の第7条第1号の規定は、平成25年4月1日から適用する。

附 則（平成27年3月23日規第18号改正）

この規程は、平成27年4月1日から施行する。

附 則（平成29年3月28日規第64号改正）

この規程は、平成29年4月1日から施行する。

2. 東北大学埋蔵文化財調査室運営委員会委員名簿（2018年度）

委員長 室 長（学術資源研究公開センター 教授）	藤澤 敦
委 員 キャンパス総合計画委員会（川内キャンバス環境整備協議会 法学研究科長）	桜島 博志
キャンパス総合計画委員会（青葉山キャンバス環境整備協議会 理学研究科長）	寺田 真浩
キャンバス総合計画委員会（キャンバスデザイン室 特任教授）	杉山 丞
学術資源研究公開センター 准教授	高鶴 礼詩
文学研究科 教 授	阿子島 香
文学研究科 教 授	柳原 敏昭
文学研究科 准教授	鹿又 喜隆
文学研究科 准教授	堀 裕
工学研究科 准教授	飛ヶ谷 潤一郎
災害科学国際研究所 准教授	佐藤 大介
施 設 部 長	高橋 勝治
幹 事 施 設 部 計画課長	森屋 昭則

3. 東北大学埋蔵文化財調査室運営委員会調査部会委員名簿（2018年度）

委員長 室 長（学術資源研究公開センター 教授）	藤澤 敦
委 員 学術資源研究公開センター 准教授	高嶋 礼詩
文学研究科 教 授	阿子島 香
文学研究科 教 授	柳原 敏昭
文学研究科 准教授	鹿又 喜隆
文学研究科 准教授	堀 裕
工学研究科 准教授	飛ヶ谷 潤一郎
災害科学国際研究所 准教授	佐藤 大介
埋蔵文化財調査室 文化財調査員（特任准教授）	菅野 智則
埋蔵文化財調査室 文化財調査員（専門職員）	柴田 恵子
埋蔵文化財調査室 文化財調査員（専門職員）	石橋 宏
施 設 部 計画課長	森屋 昭則

4. 東北大学埋蔵文化財調査室刊行報告書一覧

〈東北大学埋蔵文化財調査年報〉

書名	刊行年	掲載内容	刊行主体
東北大学埋蔵文化財調査年報1	1985	昭和58年度（1983年度）事業概要 仙台城跡二の丸第1地点 (NM1)	東北大学埋蔵文化財調査委員会
		仙台城跡二の丸第2地点 (NM2)	
		仙台城跡二の丸第3地点 (NM3)	
東北大学埋蔵文化財調査年報2	1986	昭和59年度（1984年度）事業概要 青葉山B道路第1次調査 (AOB1)	東北大学埋蔵文化財調査委員会
		青葉山B道路第2次調査 (AOB2・旧称AOF) 青葉山E道路第1次調査 (AOE1)	
		昭和60年度（1985年度）事業概要 仙台城跡二の丸第6地点 (NM6)	
東北大学埋蔵文化財調査年報3	1990	芦ノ口道路第1次調査 (TM1) 研究編－東北地方における近世窯業と陶磁器をめぐる問題はほか	東北大学埋蔵文化財調査委員会
		昭和61年度（1986年度）事業概要 昭和62年度（1987年度）事業概要	
		仙台城跡二の丸第4地点 (NM4) 仙台城跡二の丸第7地点 (NM7) 仙台城跡二の丸第8地点 (NM8)	
東北大学埋蔵文化財調査年報4・5	1992	昭和63年度（1988年度）事業概要 仙台城跡二の丸第5地点 (NM5)	東北大学埋蔵文化財調査委員会
		平成1年度（1989年度）事業概要 仙台城跡二の丸第5地点 (NM5) 付帯施設部分	
東北大学埋蔵文化財調査年報7	1994	仙台城跡二の丸第5地点 (NM5) 調査成果の検討 仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第5地点 (BK5) 川渡農場町西道跡第3地点 (KW1)	東北大学埋蔵文化財調査委員会
		平成2年度（1990年度）事業概要 仙台城跡二の丸第9地点 (NM9)	
		平成3年度（1991年度）事業概要 仙台城跡二の丸第10地点 (NM10) 芦ノ口道路第2・3・3次調査 (TM2・TM3) 考察編－仙台城二の丸跡の考古学的調査－	
東北大学埋蔵文化財調査年報8	1997	平成4年度（1992年度）事業概要 仙台城跡二の丸第13地点 (NM13) 青葉山地区分布調査 研究編－相馬藩における近世窯業生産の展開	東北大学 埋蔵文化財調査研究センター
		平成5年度（1993年度）事業概要 仙台城跡二の丸第12地点 (NM12)	
		仙台城跡二の丸第14地点 (NM14) 青葉山E道路第2次調査 (AOE2)	
東北大学埋蔵文化財調査年報9	1998	平成6年度（1994年度）事業概要 仙台城跡二の丸第15地点 (NM15) 青葉山E道路第3次調査 (AOE3)	東北大学 埋蔵文化財調査研究センター
		平成7年度（1995年度）事業概要 仙台城跡二の丸第11地点 (NM11) 仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第4地点 (BK4) 青葉山E道路第4次調査 (AOE4) 研究編－東北大学構内（仙台城二の丸跡）道路出土漆器資料の材質と製作技法	
		平成8年度（1996年度）事業概要 仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第6地点 (BK6) 青葉山E道路第5次調査 (AOE5) 芦ノ口道路第4次調査 (TM4)	
東北大学埋蔵文化財調査年報10	1999	平成9年度（1997年度）事業概要 仙台城跡二の丸第16地点 (NM16)	東北大学 埋蔵文化財調査研究センター
		青葉山E道路第6次調査 (AOE6)	

書名	刊行年	掲載内容	刊行主体
東北大理藏文化財調査年報16	2001	平成10年度（1998年度）事業概要 研究編－糖アルコール含浸法における予備実験	東北大理藏文化財調査研究センター
東北大理藏文化財調査年報17	2002	平成11年度（1999年度）事業概要	東北大理藏文化財調査研究センター
東北大理藏文化財調査年報18	2005	平成12年度（2000年度）事業概要 仙台城跡二の丸第17地点 (NM17)	東北大理藏文化財調査研究センター
東北大理藏文化財調査年報19 第1分冊	2006	平成13年度（2001年度）事業概要 芦ノ口道跡第5次調査 (TM5) 仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第7地点 (BK7) 遺構	東北大理藏文化財調査研究センター
東北大理藏文化財調査年報19 第2分冊	2009	仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第7地点 (BK7) 陶磁器・土器・土製品・瓦	東北大理藏文化財調査室
東北大理藏文化財調査年報19 第3分冊	2007	仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第7地点 (BK7) 木簡・墨書きある木製品	東北大理藏文化財調査室
東北大理藏文化財調査年報19 第4分冊	2008	仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第7地点 (BK7) その他の遺物	東北大理藏文化財調査室
東北大理藏文化財調査年報19 第5分冊	2010	仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第7地点 (BK7) 分析・考察	東北大理藏文化財調査室
		平成14年度（2002年度）事業概要 仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第8地点 (BK8) 青葉山E道跡第7次調査 (AOE7) 青葉山E道跡第8次調査 (AOE8)	東北大理藏文化財調査研究センター
東北大理藏文化財調査年報21	2006	平成15年度（2003年度）事業概要 仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第9地点 (BK9) 芦ノ口道跡第6次調査 (TM6)	東北大理藏文化財調査室
東北大理藏文化財調査年報22	2008	平成16年度（2004年度）事業概要	東北大理藏文化財調査室
東北大理藏文化財調査年報23	2009	平成17年度（2005年度）事業概要	東北大理藏文化財調査室
東北大理藏文化財調査年報24	2010	平成18年度（2006年度）事業概要 仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第10地点 (BK10) 青葉山新キャンパス地区試掘調査	東北大理藏文化財調査室

〈東北大理藏文化財調査室調査報告〉

シリーズ名	書名	刊行年	掲載内容	刊行主体
東北大理藏文化財調査室調査報告1	仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第11地点・第12地点－仙台市高速鉄道東西線模擬補償関係調査報告書－	2011	東西線補償関係調査の概要 仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第11地点 (BK11) 仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第12地点 (BK12) 川内地区的絵図記載人名の検討 川内地区における江戸時代の道路の復元	東北大理藏文化財調査室
東北大理藏文化財調査室調査報告2	仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第13地点	2013	仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第13地点 (BK13)	東北大理藏文化財調査室
東北大理藏文化財調査室調査報告3	芦ノ口道跡第7次調査・第8次調査	2014	芦ノ口道跡第7次調査 (TM7)・第8次調査 (TM8)	東北大理藏文化財調査室
東北大理藏文化財調査室調査報告4	芦ノ口道跡第9次調査・青葉山E道跡第9次調査－東日本大震災復旧事業関係調査報告書－	2015	芦ノ口道跡第9次調査 (TM9)・青葉山E道跡第9次調査 (AOE9)	東北大理藏文化財調査室
東北大理藏文化財調査室調査報告5	仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第16地点	2016	仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第16地点 (BK16)	東北大理藏文化財調査室
東北大理藏文化財調査室調査報告6	仙台城跡二の丸地区第18地点	2017	仙台城跡二の丸地区第18地点 (NM18)	東北大理藏文化財調査室
東北大理藏文化財調査室調査報告7	仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第14地点 第1分冊	2019	仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第14地点 (BK14)	東北大理藏文化財調査室
東北大理藏文化財調査室調査報告8	仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第14地点 第2分冊	2020	仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第14地点 (BK14)	東北大理藏文化財調査室

〈東北大学埋蔵文化財調査室年次報告〉

書名	刊行年	掲載内容	刊行主体
東北大学埋蔵文化財調査室年次報告2007	2010	平成19年度（2007年度）事業概要	東北大学埋蔵文化財調査室
東北大学埋蔵文化財調査室年次報告2008	2010	平成20年度（2008年度）事業概要	東北大学埋蔵文化財調査室
東北大学埋蔵文化財調査室年次報告2009	2012	平成21年度（2009年度）事業概要	東北大学埋蔵文化財調査室
東北大学埋蔵文化財調査室年次報告2010	2012	平成22年度（2010年度）事業概要	東北大学埋蔵文化財調査室
東北大学埋蔵文化財調査室年次報告2011	2013	平成23年度（2011年度）事業概要	東北大学埋蔵文化財調査室
東北大学埋蔵文化財調査室年次報告2012	2014	平成24年度（2012年度）事業概要	東北大学埋蔵文化財調査室
東北大学埋蔵文化財調査室年次報告2013	2015	平成25年度（2013年度）事業概要 当／口道跡等10次調査（TM110）	東北大学埋蔵文化財調査室
東北大学埋蔵文化財調査室年次報告2014	2016	平成26年度（2014年度）事業概要	東北大学埋蔵文化財調査室
東北大学埋蔵文化財調査室年次報告2015	2017	平成27年度（2015年度）事業概要	東北大学埋蔵文化財調査室
東北大学埋蔵文化財調査室年次報告2016	2018	平成28年度（2016年度）事業概要	東北大学埋蔵文化財調査室
東北大学埋蔵文化財調査室年次報告2017	2019	平成29年度（2017年度）事業概要	東北大学埋蔵文化財調査室
東北大学埋蔵文化財調査室年次報告2018	2020	平成30年度（2018年度）事業概要	東北大学埋蔵文化財調査室

*これらの刊行物は、東北大学機関リポジトリTOURおよび全国道路報告総覧で全て公開している。

東北大学機関リポジトリTOUR <https://tohoku.repo.nii.ac.jp>

全国道路報告総覧 <http://itereports.nabunken.go.jp/ja>

東北大学埋蔵文化財調査室年次報告2018

令和2年3月31日

発行 東北大学埋蔵文化財調査室
〒980-8577 仙台市青葉区片平2丁目1-1
TEL 022(217)4995

印刷 株式会社 東北プリント
〒980-0822 仙台市青葉区立町24-24
TEL 022(263)1166

Annual report in fiscal year 2018

**Archaeological Research office on the Campus,
Tohoku University**

『東北大学埋蔵文化財調査室年次報告』2018

正誤表

頁	行	誤	正
21	11	2019年度に	2018年度に
21	引用・参考文献	東北大学埋蔵文化財調査室 2016a 『東北大学埋蔵文化財調査室年次報告』2015	東北大学埋蔵文化財調査室 2017 『東北大学埋蔵文化財調査室年次報告』2015
21	引用・参考文献	東北大学埋蔵文化財調査室 2016b 『仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第16地点』	東北大学埋蔵文化財調査室 2016 『仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第16地点』